

## 第18回水先人の人材確保・育成等に関する検討会（議事概要）

日 時：令和3年10月25日(月)15:30～17:00

会議形式：WEB 会議方式

出席者：池谷委員、石川委員、江口委員、落合委員（座長）、葛西委員、片岡委員、小山委員、佐々木委員、竹中委員、立石委員、谷本委員、西本委員、羽原委員、藤田委員、村瀬委員、森重委員

### 【国土交通省】

坂巻大臣官房審議官、春名海技課長、野見山次席海技試験官、水野海技課企画調整官、宮西海技課水先業務調整官、山本港湾局計画課港湾計画審査官（オブザーバー）、内田海上保安庁交通部航行安全課長（オブザーバー）

### 【（一財）海技振興センター】

飯塚理事長、柳原常務理事、戸摩常務理事、鈴木技術・研究部長

## 1. 議事

- (1) 第8回モニタリング委員会報告
- (2) 水先人養成等におけるデジタル化等推進ワーキング・グループの進捗状況
- (3) 二級進級課程のシミュレータ訓練時間の見直し

## 2. 議事概要

- (1) 第8回モニタリング委員会報告  
水先人関係委員からモニタリング委員会報告（資料2）について説明を行った。  
主な質疑応答又は意見は次のとおり。

### ①水先人会会則の実効性強化による安全性向上への効果

- 不適切運航事例及び品位欠如事例の変遷の資料において、水先区毎の件数に多寡があるように見えるが、検討会のとりまとめの整理にもあるように、「水先人自らによるガバナンスがより効果的に発揮され、積極的に報告がなされるようになった、あるいは、各水先人会の確認体制が充実された」など、様々な要因が複雑に関係しているため、総合的な視点で確認していただきたい。
- 水先人会会則の実効性は、日本船主協会と日本水先人会連合会で開催する業務連絡会を活用しつつ進めていきたい。不適切運航事例等については、水先人自らが報告し、所属する水先人会内においても注意等の措置を確認するようになっており、適切な対応を連合会と共に進めていきたい。安全性向上については、水先人の技量向上とともに安全サービスに従事するプロとしての基本姿勢をしっかりと維持し、資格制度としてのあるべき姿を示してもらいたい。
- 海難事故件数の変化について、件数が減少しているのは良いことであるが、分母がわからないため、総きょう導回数を入れて比率を示すなど、資料の見直しを行ってほしい。

## ②水先人派遣支援の状況

- 派遣支援体制が整備されていないのは、全国 34 区のうち、大規模水先区を除けば、残り 6 区となる。非常時の水先業務実施体制の維持を図るため、海技課の要請も踏まえ、来年度（令和 4 年度）に残り 6 区の体制を整えたいと考えている。

(2) 水先人養成等におけるデジタル化等推進ワーキング・グループの進捗状況  
事務局より、水先人養成等におけるデジタル化等推進ワーキング・グループの進捗状況（資料 3）について説明を行った。  
主な質疑応答又は意見は次のとおり。

- 本 WG は現在までに 3 回開催しており、各委員から実践的かつ有益な情報をいただいているところ、特に学識経験者の委員からは自身のオンライン授業の経験や取組、考え方などを紹介していただき、大変参考になっている。水先免許更新講習及び水先養成教育については方向性をとりまとめたところであるが、実施機関においてもオンライン・デジタル教育の実現に向けて是非とも取組んでいただきたい。
- シミュレータ訓練については、WG において、実機のない状態でオンラインによるリモート訓練は難しいとの意見をいただいております、本検討会の議事概要においても、シミュレータ訓練をオンライン等で実施することにはハードルが高い旨を明記してほしい。また、令和 4 年度からオンライン授業等を開始するために本年度末に向けて、水先教育センターや海技大学校の講師が一丸となって取り組むうえでも、e-ラーニングの専門家によるサポートを是非ともいただきたい。
- 引き続きとりまとめに向けて検討をお願いします。

(3) 二級進級課程のシミュレータ訓練時間の見直し  
事務局より二級進級課程のシミュレータ訓練時間の見直し（資料 4）について説明を行った。  
主な質疑応答又は意見は次のとおり。

- 教育現場の意見としても、シミュレータ訓練時間の改正案は、無理な時間数になっているとは考えておらず、対応バース数が最も多い東京湾において 84 時間の訓練を実施すれば必要十分と考える。

(4) 全体を通しての主な質疑応答又は意見は次のとおり。  
各委員より特に発言はなかった。

### 【事務局より】

次回の検討会は、2022 年 2 月頃を計画しているが、今後、詳細は事務局より各委員と日程調整を行う。

以上